

座光寺 19地区探訪④ 下羽場



信州飯田 座光寺一便

麻績の里
2014.11 No.16
下羽場号

東から下羽場地区方面を望む



下羽場を東西に貫いていた、かつてのメインストリート。道路脇の石垣が歴史を感じさせます。

下羽場という地名は江戸時代にまでさかのぼり、古くより人の定住があつたことが伺えます。「上」と「下」二つの組に分かれています。「上」と「下」二つの組に分かれています。「上」と「下」二つの組に分かれています。が、戦前に「下羽場」で一本化され、現在に続いています。地形上、段丘先端に近い平地は「羽場」と呼ばれました。似たような地形で羽場と呼ばれる地名が、飯田市や上伊那地方にも見られます。「下羽場」の地名も、河原を見おろす段丘上の地域であったことに由来しています。土地の改良開発を通して、現在の下羽場は下段の天竜河原まで、広く豊かな水田が広がっています。

麻績の里 座光寺便 下羽場号 平成26年11月 発行 ■ 麻績の里ふるさと応援俱楽部(飯田市役所座光寺自治振興センター内)

TEL 0265-22-1401 FAX 0265-22-1401 E-mail:zakouji@city.iida.nagano.jp

座光寺ホームページ
「南信州 歴史とくだもの里 座光寺」が
完成しました。

<http://zakoji.jp/>

観光、歴史文化から、まちづくり、暮らし一般まで、旬な情報、役立つ情報を届けします。ぜひ一度ご覧ください。

「史跡広場」として高度な利用が望まれます。このため区では早期にこの土地を公有化し、事業展開できる環境を整えたいと考えています。具体的には寄付金を募り、これを原資に飯田市による土地取得を働きかけたいと存



麻績の里●座光寺便からのお知らせ

座光寺区では現在、高岡の森に隣接する土地の取得を進めています。この土地は所有者のご厚意により、これまで無償で借り受け、駐車場として利用してきました。この度恒川官衙遺跡が国史跡に指定されたことで、今後は

多くの方に当地域づくりの趣旨にご賛同・ご協力をいただけますよう、お願ひ申し上げます。

● 詳細につきましては、座光寺自治振興センターまでお問い合わせください。
TEL 0265-22-1401



高岡の森と史跡広場予定地(手前)

ふるさとパック
秋の味覚満載便
2,000円(送料別)



- お申し込み先 座光寺自治振興センター内 麻績の里ふるさと応援俱楽部 (TEL.0265-22-1401・FAX.0265-22-1475) E-mail:zakouji@city.iida.nagano.jp
- お申し込み締切 平成26年12月20日
- お届け時期 平成26年12月末～27年1月中旬
- ※代金は商品到着後にお支払いください。



右下の写真は現在の下羽場の共同墓地です。明治期に●●の原田家で土地を無償提供し、当時では画期的な地区の手による共同墓地が誕生しました。

まとまりの良さが自慢



下羽場を東西に延びる主要道

下羽場の耕地整理事業

戦後、天竜川の河原地帯に農地をもっていた下羽場の人たちの手で、同地区二〇町歩の耕地整理事業が始まりました。

途中、竜西一貫水路事業も関係し、考え方の対立から工事は暗礁に乗り上げるなど、幾多の糾余曲折を経ました。そして近代農業経営をめざした大事業は、昭和40年3月、ようやく完成となりました。下羽場辺の記念碑には、次のように印されています。

「竜西一貫水路事業と相まって唐沢 五郎田 下羽場地区七二戸の賛同を得 水路道路の整備と二五町余の耕地整理による経営の近代化と増産を願い昭和三六年二月着工 昭和四〇年三月完成 これにともなう一千六百余万円のうち地元負担分の返済が平成元年七月に一切終了 ここに当時の労苦をしのび一層の発展を願って記念碑を建立する 平成元年一二月」



中段から下段におり坂道は堅牢な石垣に沿つて造られています。今では一面に水田が広がる天竜川原地帯は、かつては湿地で、天竜水系から流入する土砂のために、排水の問題を抱えていました。これに戦時下、国の食糧増産命令が加わり、昭和17年12月、村を挙げての暗渠排水事業（溝を開き、そこに竹を何本も入れて水抜きをする工事）が実施されました。一戸平均130日も出動した大事業は座光寺の川原一帯に及ぶもので、19年6月に完成しました。

結力が強固です。6月頭には蚕玉様のお祭りが、春と秋には水神様のお祭りが、毎年地区手で執り行われています。また、地区の年末総会では、秋葉講の代参の抽選が現在も行われます。つい最近まで、3名の代参が秋葉山に毎年詣でていたというから驚きです。



左下の写真は現在の下羽場の共同墓地です。明治期に●●の原田家で土地を無償提供し、当時では画期的な地区の手による共同墓地が誕生しました。

この事例のように、下羽場は伝統を守る団

座光寺 19地区探訪④

歩けば！が見えてくる 下羽場



大正初期に完成した糀の乾燥庫(上:竣工時 下:現在)

米どころ下羽場

左上は大正初期に撮影された写真です。後に建つ小屋の完成記念で、「乾燥庫 下羽場組合」の木札が掲げられています。80年を経た現在は役目を終えましたが、下羽場の「産業遺産」として今も目にすることができます。このように、下羽場の中段地域は古くより、米どころとして人々が定住しました。養蚕が隆盛となる以前の江戸から明治初期は、糀づくりが生業の中心で、下羽場は「座光寺の一等地」といわれ、豊かな水田が広がっていました。「金井戸井」「中井」の二つの井水も引かれ、段丘上のため水害の心配もありませんでした。この穀倉地帯を天竜川から東西に延びていった道（写真次頁左上）がかつての主要道です。